

平成30年度病虫害発生予察予報第8号（11月）

平成30年11月7日

高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 タバココナジラミ 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ ハスモンヨトウ	<u>多(西)</u> 、少(中央、中西) <u>やや多(中央)</u> 、少(中西、西) 少(県下全域) 少(県下全域) 少(県下全域) やや少(西)、少(中央、中西)
促成ナス	うどんこ病 黒枯病 ハスモンヨトウ ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	少(県下全域) <u>多(東、西)</u> 、平年並(中央) 平年並(東)、少(中央、西) やや少(東、西)、少(中央) やや少(県下全域)
促成ピーマン ・シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 ハスモンヨトウ ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	少(県下全域) <u>多(東、中西)</u> 、少(中央) <u>多(中西)</u> 、少(東、中央) <u>やや多(東、中西)</u> 、少(中央) <u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、少(東) やや少(県下全域)
促成トマト	葉かび病 すすかび病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	少(中央) <u>多(中央)</u> 平年並(中央) 少(中央)

※ () 内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部

I 気象予報（高松地方気象台11月1日発表）

＜予想される向こう1か月の天候＞11月3日から12月2日

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1ヶ月の平均気温は、高い確率60％です。

週別の気温は、1週目は高い確率80％です。2週目は高い確率50％です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40％です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)
1ヶ月	四国地方	気温	10	30	60	
		降水量	30		40	30
		日照時間	30		40	30

＜気温経過の各階級の確率（％）＞

期間	対象地域	低い		平年並	高い
1週目	四国地方	10	10	80	
2週目		20		30	50
3～4週目		20		40	40

＜予報の対象期間＞

1ヶ月：11月3日（土）～12月2日（月）

1週目：11月3日（土）～11月9日（金）

2週目：11月10日（土）～11月16日（金）

3～4週目：11月17日（土）～11月30日（金）

II 病虫害発生予想

1 抑制、促成キュウリの病虫害

1) ベと病

予 想 発生量：多（西部）、少（中央部、中西部）

根 拠

(1)巡回調査では県西部のみで発生が見られ、発生面積は平年に比べ多かった。

(2)11月は晴れの日が多いと予想されているため病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

予 想 発生量：やや多(中央部)、少（中西部、西部）

根 拠

(1)巡回調査では県中央、西部で発生が見られ、発生面積は中央部でやや多かったが、発病程度の高いほ場は見られなかった。

(2)11月は晴れの日が多いと予想されているため病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。なお、ガッテン乳剤、プロパティフロアブルを使用した場合、菌叢の褐変、消失は見られないので、防除効果は上位葉への進展など、未発生葉への進展状況で判断する。

3) タバココナジラミ

予 想 発生量：少（県下全域）

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られたが、発生面積はいずれの地域も平年以下、発生程度の高いほ場も見られなかった。
- (2)気温の低下とともに、野外からのハウスへの侵入は無くなる。また、増殖も緩慢となるため減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

(1)生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

4) 黄化えそ病

予 想 発生量：少（県下全域）

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られたが、発生面積は各地域ともに平年に比べ少なかった。
- (2)気温の低下にともない本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの増殖が緩慢になる。また、野外から施設内への飛び込みも無くなるので減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

(1)媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を低密度時に徹底する。また、罹病株は早期に除去し、埋設するなどの処分を行う。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：少（県下全域）

根 拠

- (1)巡回調査では県中央、中西部で発生が見られた。発生面積はいずれの地域とも平年に比べ少なく、発生程度も平年以下であった。
- (2)気温の低下にともない増殖が緩慢になる。また、野外から施設内への飛び込みも無くなるので、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

6) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：やや少（西部）、少（中央部、中西部）

根 拠

- (1)巡回調査では、県西部で発生が見られただけであった。
- (2)気温の低下とともに野外密度は減少するため、ハウス内への飛び込みは少なくなる。またハウス内での増殖も緩慢となるため、発生は減少すると考えられる。

対 策

- (1)成虫は植物体のみならずいろいろな所に卵塊を産みつける。ハウス開口部にネット被覆をしている場合、ネットに産み付けられた卵塊から孵化した幼虫がハウス内に侵入することがあるので注意する。

2 促成ナスの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：少（県下全域）

根 拠

- (1)巡回調査では県東部と西部で発生が見られたが、発生面積、発生程度ともに平年以下であった。
- (2)11月は晴れの日が多いと予想されているため病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

予 想 発生量：多（東部、西部）、平年並（中央部）

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県東部と西部で多く、発病程度も高かったが、県中央部では発生面積、発病程度とも平年並であった。
- (2)11月は晴れの日が多いと予想されているため病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：平年並（東部）、少（中央部、西部）

根 拠

- (1)巡回調査では県東部でのみ発生が見られた。発生面積は平年並であったが、発生程度は高かった。
- (2)気温の低下とともに野外密度は減少するため、ハウス内への飛び込みは少なくなる。またハウス内での増殖も緩慢となるため、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1)成虫は植物体のみならずいろいろな所に卵塊を産みつける。ハウス開口部にネット被覆をしている場合、ネットに産み付けられた卵塊から孵化した幼虫がハウス内に侵入することがあるので注意する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや少（東部、西部）、少（中央部）

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られたが、発生面積、発生程度とも平年以下であった。
- (2)気温の低下にともない増殖が緩慢になる。また、野外から施設内への飛び込みも無くなるので、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや少（県下全域）

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られ、発生面積、発生程度ともに平年並であった。
- (2)気温の低下とともに、野外からハウス内への侵入は無くなる。また、増殖も緩慢になるため減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1)生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する

3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：少（県下全域）

根 拠

- (1)巡回調査では発生が見られなかった。
- (2)11月は晴れの日が多いと予想されているため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 斑点病

予 想 発生量：多（東部、中西部）、少（中央部）

根 拠

- (1)巡回調査では県東部、中西部で発生が見られ、発生面積は平年よりも多かったが、発病程度の高いほ場は見られなかった。
- (2)11月は晴れの日が多いと予想されているため現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) 黒枯病

予 想 発生量：多（中西部）、少（東部、中央部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県中西部でのみ発生が見られ、当該地域では発生面積は平年よりも多く、発病程度も高かった。
- (2) 11月は晴れの日が多いと予想されているため病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

4) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：やや多（東部、中西部）、少（中央部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県東部と中西部で多く、発生程度も高かった。一方、中央部での発生は少なかった。
- (2) 気温の低下とともに野外密度は減少するため、ハウス内への飛び込みは少なくなる。またハウス内での増殖も緩慢となるため、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 成虫は植物体のみならずいろいろな所に卵塊を産みつける。ハウス開口部にネット被覆をしている場合、ネットに産み付けられた卵塊から孵化した幼虫がハウス内に侵入することがあるので注意する。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：多（中西部）、やや多（中央部）、少（東部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県中西部、中央部で多～やや多く、寄生密度も平年に比べ高かった。
- (2) 気温の低下とともに、野外密度が低下するためハウス内への飛び込みは少なくなる。また、増殖も緩慢になるため減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

6) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや少（県下全域）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で見られた。発生面積はいずれの地域も平年並以下であった。中央部で発生程度が高いほ場が散見されたが、すす病の発生は見られなかった。
- (2) 気温の低下とともに、野外密度が低下するため野外からのハウス内侵入はなくなる。また、増殖も緩慢となるため減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

4 促成トマトの病害虫

1) 葉かび病

予 想 発生量：少(中央部)

根 拠

- (1) 巡回調査では発生が見られなかった。
(2) 11月は晴れの日が多いと予想されているため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

2) すすかび病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 巡回調査では平年に比べ発生が多く、発病程度も高かった。
(2) 11月は晴れの日が多いと予想されているため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) 黄化葉巻病

予 想 発生量：平年並(中央部)

根 拠

- (1) 巡回調査では平年に比べ発生が多かったが、罹病株の抜き取り処分が行われている。
(2) 本病の媒介虫であるタバココナジラミは、気温の低下にともない野外から施設内への侵入は無くなるため、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋設するなどして処分する。

4) タバココナジラミ

予 想 発生量：少(中央部)

根 拠

- (1) 巡回調査では発生が見られなかった。
(2) 気温の低下とともに、野外密度が低下するため野外からのハウス内侵入はなくなる。また、増殖も緩慢となるため減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。また、本虫は黄化葉巻病を媒介するので注意する。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ (こうち農業ネット)

- ①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③病虫害発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病虫害 etc.